



News Letter



第6号

大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒540-8508 大阪市中央区森之宮中央1-6-20(株)サクラクレパス内 Tel:06-6910-5595, Fax:06-6910-8837
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@craypas.co.jp

米空軍太平洋音楽隊ーアジア “パシフィック・ショーケース” Jazz演奏会

1年前から構想を練っていた米空軍太平洋音楽隊ーアジア“パシフィック・ショーケース”のJazz演奏会を4月26日(火)、大阪国際会議場で開催しました。ドーム型天井に描かれた“大阪の祭り”の日本画が美しい特別会議場での立食パーティの後、夜景が眺められるホワイエに会場を移し、“パシフィック・ショーケース”のオープニング曲で演奏会が始まりました。中盤では関西ジャズ協会からテナーサックスの鈴木央紹さんとボーカルの溝口恵美子さんが音楽隊に加わり、文字通りの日米競演が繰り広げられました。ビートとリズム感溢れるジャズ演奏、さらにアンコールでは演奏者と聴衆が一体となって、本場のジャズに酔いしれました。

☆ 殿浦 嘉郎 さん(奈良・河合町)

まず最初に譜面台を見て思い出したのは、1940年代のグレンミラー・オーケストラでした。「USAF」と書かれた文字は、若いころに見たまさにグレンミラー・オーケストラではないか。聴いているとJAZZのドラムとベースがおなかにまで響き、心地よい気分になった。参加された皆さまのほとんどは、やはりグレンミラーやベニーグッドマン時代の人々なのだろうか。アンコールも素晴しかった。流暢な日本語で“SAKURA”が歌われ、“SING SING SING”では各奏者のソロ演奏が織り込まれ、中でもドラム演奏には会場の全員が乗りに乗って最高潮に達したようだった。前回の能楽鑑賞から180度変わった趣向で、本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。主催者の企画力に心からお礼を申し上げます。

☆ 寺田 美枝子 さん(宝塚市)

日本に生まれ育ったのに、自分の国をよく知っているとはいえません。アメリカという親しい国についても、知らないことが多いのです。そんな両国の文化を肩肘張らずに楽しく味わわせて頂ける大阪日米協会の企画は、いつも、とても魅力的です。今回も、大阪の夜景が美しく見渡せる大阪国際会議場12階で、米空軍パシフィック・ショーケースのジャズ演奏を堪能させて頂きました。黒服に蝶ネクタイ、胸と上腕に空軍のワッペンをつけた凛々しい17人のプレイヤー。リーダーのホーン少佐は現役パイロットでいらっしゃるのか。上品で端正な演奏に伸びのある艶やかなボーカルがマッチして、懐かしいシナトラのナンバーなど思わず小声で口ずさんでしまいました。溝口恵美子さんのボーカルも雰囲気盛り上げ、アンコールの“さくら”、“Sing Sing Sing”では拍手が鳴り止まず、「これぞ日米協会のイベント」だと感心いたしました。前日、JRの悲しい事故がありましたが、本当に心を癒された一夜でした。ありがとうございました。



関西日英協会共催ゴルフ大会

5月14日(土)、さわやかな青空の下、日本のゴルフ発祥の地、神戸ゴルフ倶楽部で、関西日英協会と共催のゴルフ大会を開催しました。「このゴルフ場で一度はゴルフをしてみたかった」という声があちこちで聞こえる位の人気のゴルフ場。どこで写真を撮っても絵になる美しさ。スタート前は皆、美しいフェアウェイに酔いしれていましたが、いざラウンドが始まると難しいコースに苦戦の連続、景色も目に入らない人がたくさんいらしたようです。大阪日米協会優勝の栄冠は、スイスホテル大阪の糸野隆史さんに輝きました。



劇団四季「マンマミーア」観劇会

6月7日(火)、昨年の「アイダ」に引き続き、劇団四季ミュージカル「マンマミーア」の観劇会を開催しました。なかなかチケットが取れない人気のミュージカル。確保している100席が、あっという間にソールドアウトになりました。当日は観劇に先立ちヒルトンホテル大阪で、劇団四季の営業部金子奈穂さんから作品の概要についてお話を伺いした後、夕食をいただきました。この「マンマミーア」は新しく建設された大阪四季劇場の柿落とし公演。ピカピカの最新の劇場で、アバの楽曲に彩られた楽しいミュージカル「マンマミーア」を心ゆくまで堪能しました。最後のスタンディングオベーション、会員の皆さんもノリノリでした。



退任に当たって

大阪日米協会 会長 西村 貞一



時が経つのは早いもので、伝統ある大阪日米協会の会長の任期を無事務めさせていただき、次期竹中統一会長にバトンを渡す時が近づいて参りました。こうして無事に任期を終えることができます事も、皆様のご協力、お力添えの賜物であると、厚くお礼申し上げます。会長を拝命した時に、何をすればよいものかと考えましたが、あまり大きな事はできないけれど、できるだけ私自身も行事に参加して、皆様と親しく交流させていただきたいと思い、日程を私の都合にあわせて決めさせていただきました。そして、行事も思いつきではなく、テーマを持たせた方がよいのではないかと思います。「日本のルーツを求めて」というテーマで日本の文化を紹介する事と、Jazzを中心とした行事でアメリカ文化を紹介する事の2本を柱に計画して参りました。また、その中で、会員の方々の中には活動の内容をあまり知らない方がたくさんおられる事を知り、広く活動を周知するために今年度より隔月の会報誌の発行を決めました。お陰さまで、たくさんの方々に好評の声をいただいております。こうして、会員の皆様に当協会を身近なところと感じ、交流していただける事は、何より嬉しい事だと思っています。残念ながらその中で、在日米国人の会員数が少ない事、若い方の参加が少ない事が課題として残されております。竹中統一新会長には、引き続き、これらの課題に取り組んでいただければ、お願いしたいと思っております。今後とも、皆様方の大阪日米協会への変らぬご支援、ご協力をお願いいたしますと共に、当協会の益々の発展を心よりお祈りしております。



大阪府より

大阪府のカリフォルニア事務所は、昨年10月にカリフォルニア州サンタクララ市のロボットイベント「RoboNexus」に大阪市シカゴ事務所と共同で出展し、大阪のPRを行いました。同イベントは、米国で初めて「家庭用ロボット」に焦点をおいたもので、消費者向けロボットとエンターテインメントロボットを中心に最新のロボット技術が紹介されました。会場には、米国のロボット工学分野の研究者から、地元の小生まで約1万人が参加し、非常に盛況でした。中でも、注目を集めたのは、日本の企業が出品した二足歩行の人間型ロボットでした。これは、展示ブースの中で唯一の人間型ロボットで、デモンストレーションのたびに多くの人を集めました。また、多数の日本人ビジネスマンが視察目的で参加し、来年の発展を検討しているとのことでした。大阪ブースは、大阪の製造業、ロボット産業の強みを活かしたPRを実施し、セミナーでは、今年7月に大阪府で開催される「ロボカップ2005」のプロモーションを行うなど、大阪の知名度向上に努めました。



桜人



外務省特命全権大使
(大阪担当)
神長 善次 さん

桜人を乗せたバスが、梅田を出発したのは午前9時前。桜日よりの最好日にして数万人の客で賑わう京都への旅。それだけに午後7時前に予定通りに帰れるとは誰が予想し得たであろうか。御室の有明桜がいい。色は白、一重も八重もある。花は集まりて小手毬の房となり、房は木々を満たして白雪の塊となる。丈は一丈、高からず低からず。その群落の花の壮麗なること、例えがたし。(注、この日有明桜は未だしであつたので、その翌週に再度訪ねた次第)仁和寺は、宇多天皇以来の門跡。御座所あり、京の紫宸殿を移した金堂あり。五重の塔を包む白妙の桜も風情がある。桜一色の中に、赤紫のツツジが奥ゆかしく色を添えていた。次に訪れたのが陽明文庫。近衛家代々の国宝物が展示されていた。藤原道長の関白日記、定家の和歌詠草もその一つである。自分と本物の間に遮る物がなく、直かに接してみていると思ふに古書に染み入った古人の息づかいがそのまま出てくる感じがしてくる。



- ・白艶のその柔わ肌を誰に見そ春爛漫の御室の桜よ
- ・真筆の道長定家に見みえては古書に染み入る息も出ずめや
- ・天台の帝の門跡青蓮院密教にして親鸞を産む

会 員 便 り

♪ブロードウェイの子守唄♪



三上 雄太郎 さん
(芦屋市)

観客が客席で踊りだすブロードウェイミュージカル「マンマミーア」。オーケストラボックスの指揮者が客席を振り向き、笑顔でウィングする。中高年の男女で満席になった劇場全体がまるで舞台そのもの。スターになった気分の観客が出演者の声に合わせて歌う「アバ」の名曲、リズムに手足をならして踊る人、人。ひとときの人生の喜びを、感動を味わうことができるブロードウェイ。一緒に観賞した高校生の孫娘も、この魅力に陶酔したことだろう。夢を創り、与えるそれがブロードウェイ！わが愛するブロードウェイ！劇団四季の「マンマミーア」の公演は東京、大阪でも上演されているが、大阪はオーケストラなしで、テープだった(1月5日柿落し所見)。ブロードウェイミュージカルは、何ととっても音楽、ダンス、加えてタップに豪華な衣装、しゃれた舞台。その要素が全部詰まったのが♪42ND STREET♪日本でも何回も公演(海外)されて人気を博しているが、ミュージカルの原点はこれだと言うアメリカ人もいる。田舎娘が見出されてスターダムに(夢のシンデレラストーリー)。あらゆる階層の感動とアメリカンドリームで人気のブロードウェイミュージカル！リバイバル公演でトニー賞も獲得した。ブロードウェイの知人に聞けば、出演者の多くは30～40代、トップスターには50代も。その人たちの多くは地方、海外巡業には参加しないという。毎日、舞台上で素晴らしい演技を披露し、地位と名声を奪われたくない為に、ニューヨークで過酷な競争に生き残るんだと。だから日本公演に参加する人たちは新たにオーディションで選ばれる。20代が中心で、その中から才能とチャンスでブロードウェイの舞台に立つ人もある、と語ってくれた。今夜も♪ブロードウェイの子守唄♪のメロディーと♪シング、シング、シング♪のドラムの響きを耳にしたら、ブロードウェイの夢を見ることにしよう。



祈りについて



伊原 寛子 さん
(明石市)

明石市魚住町の住吉神社で狂言の太郎冠者を演じました。毎年5月1日に境内の能舞台で行われる能楽会が今年で30回を迎え、その記念に日頃の稽古の成果を披露しました。狂言は上質なユーモアにあふれる伝統喜劇・・・のはずが、わたしの上演中、屋外の観客席は水を打ったように静か。それもそのはず、大雨で水浸しだったのです。それでも、時折、家内安全や健康を祈願するこの神社に奉納できたことは何よりもうれしく、一生の思い出になったと思います。ところで、大阪日米協会の「日本のルーツを探る」遠足4回すべてに参加し、祈る機会をたくさん与えていただきました。明日香、伊勢、高野山、京都といった日本人の精神世界にゆかりの深い地の墓所、神社、仏閣で手を合わせ、頭をたれ、また祈る人の姿を数多く目にし、毎回清々しい気持ちで帰途につきました。先日の前ローマ法王の葬儀や新法王の就任ミサには驚くほど大勢の人々が世界中から集まり、サンピエトロ広場での祈りの場面は圧巻でした。またJRの列車事故では、犠牲者の方々のために多くの人が祈りを捧げました。祈りだけでは何もできないかもしれないけれど、祈る人々の熱意は時には難しい状況を変える原動力になるように思います。

若き日のアメリカ



福永 紀子 さん
(西宮市)

私は、高校在学中に、AFS(アメリカン・フィールド・サービス)の奨学生として1年間アメリカに留学する機会を得ました。1962年から63年のことで、米国はケネディ大統領を戴き、若い力に満ちて輝いていました。オハイオ州の堅実な中流家庭で1年を過ごしましたが、そこには秩序ある古き良きアメリカがありました。健全なアメリカの力を感じたのは、ボランティアの活動がどこでも生活の一部になっており、大企業の役員から若者まで、何らかの形で自分の持っている力を社会に差し出したいという強い思いを持っているところでした。ホストファミリーのお母さんは、毎週水曜日を病院に手伝いに行く日と決め、この日はほかのどんな用事にも優先して病院に行きます。私が奨学金を得たAFSというのも、世界各国の若者の交流を進める非営利団体で、ある町で一人の外国人留学生を受け入れるためには、ロータリークラブをはじめ、さまざまな地域のグループから当時100万円くらいのお金を集めなければなりません。私も、週に2回くらい、自分のために募金をしてくださった組織に日本の話をしに出かけ、多くの方々のアメリカ人に出会い、また日本のことを考える機会となりました。若き日の1年間のアメリカでの生活は、私の世界へ向かう扉を開けてくれました。

◆新入会員紹介◆

法人会員

中島工業株式会社
代表取締役社長
中島 博司

個人会員

木庭 和子 (大阪市)
中井 康勝 (尼崎市)
高田 登志子 (泉南市)

家族会員

木庭 健 (大阪市)

編集後記

(Notes)

米国空軍Jazz演奏会、関西日英協会との共催ゴルフ大会、マンマミーア観劇会と、我々が担当する行事も一つずつ無事に終了し、後は総会を残すのみとなりました。事務局を担当した当初は「いったいどうなる事やら？」と、不安でいっぱいでしたが、こうして2年間の担当が無事に終える事ができますのも、皆様の温かいご協力、ご支援の賜物であると、深く感謝申し上げます。この2年間、色々な人に出会い、様々な貴重な経験をさせていただきました。当協会の益々の発展を祈念しますと共に、今後は新事務局をサポートしながら、一会員として皆様との交流を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。(EM)



News Letter



Vol.6

大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

1-6-20, Morinomiya Chuo, Chuo-ku, Osaka 540-8508, Japan ☎ SAKURA COLOR PRODUCTS CORP. Tel:06-6910-5595, Fax:06-6910-8837
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@craypas.co.jp

USAF-Asia Pacific Showcase Jazz Concert

On April 26 (Tue.) at Osaka International Convention Center, the Jazz performance by USAF-Asia Pacific Showcase was held for which we had been working very hard to book this event from a year ago. The buffet style party started in the special conference room, under the dome ceiling decorated with a beautiful Japanese picture painted under the motif of Osaka festival, followed by moving out to 'Foyer' from where we could see a beautiful night view of the city. The concert commenced with the opening number of Pacific Showcase. We enjoyed the real jazz performance fully with beating and rhythmic sounds. Later, Kansai Jazz Association kindly provided us with their tenor sax player Mr. Hisatsugu Suzuki and vocalist Ms. Emiko Mizoguchi for added entertainment. The concert became literally a collaboration of Japan and America. During the encore time, the audience got intoxicated with the local talents performing in unison with the US players.

☆ Mr. Yoshio Tonoura (Kawai-cho, Nara)

When I looked at the musical stands, I instantly recollected Glenn Miller Orchestra in the 1940's. The sign of "USAF" actually represented the same which I saw in my young days. During the performance, jazzy sound of drums and a bass brought very deep and yet very comfortable vibrations in my stomach. Most of the attendants may be the same generation as Glenn Miller or Benny Goodman. Among all, encore songs were something special. "SAKURA" was sung in very fluent Japanese and "SING SING SING" included solo performance of each instrument. Especially drum solo got all the audience excited and frolic, and then, the concert seemed to reach a climax. It was really joyful time as it was completely different idea from the last Nohgaku performance. I wish to express my sincere thanks to the planning ability of JASO staffs.

☆ Ms. Mieko Terada (Takarazuka)

Even though I was born and grew in Japan, I cannot say I know too well about my own country. Also I have limited knowledge about our friendly country, America. Every event JASO plans, it is always attractive as it helps us enjoy different culture of both countries without any formality. Jazz performance of USAF Pacific Showcase this time was enjoyed to my heart's content at 12th floor of Osaka International Convention Center from where the beautiful night view of Osaka was viewed. 17 players wearing black suits and butterfly-shaped neckties were so gallant with air force badges on their arms and chests. I heard the group leader MSgt Horne was an active pilot. Elegant and decorous performance matched with penetrating and charming vocal, and I was unconsciously humming in a low voice. The vocalist Ms. Emiko Mizoguchi heightened the mood and the encore songs 'Sakura' & 'Sing Sing Sing' were welcomed by standing ovation, which I felt "This is real event of JASO." On the previous day there was a sad JR accident and my heart was really healed at this event night. Thank you.



Joint Golf Competition with JBSK

On May 14 (Sat.), we held the annual golf competition jointly with Japan-British Society of Kansai under the refreshing blue sky at Kobe Golf Club which is the cradle of Japanese golf. It is so popular that the voice "I wanted to play golf here once in my life" was heard here and there. The panorama view will make a beautiful picture anywhere. Before tee off, the participants were intoxicated with the beauty of the golf course but many of them seemed not to pay attention to it, as they were busy struggling against the tough course once the play started. From JASO side, Mr. Takashi Kumeno of Swiss Hotel Osaka won the laurels.



Theater Party for Mamma Mia by Shiki Theater

On June 7 (Tue.), we had theater-party of the musical 'Mamma Mia' performed by Shiki Theater in a continuation of the last year's 'AIDA'. It was so popular that it was quite difficult to get tickets and the allotted 100 seats were instantly booked by the members' early application. Before the theater-going, we received a brief explanation about the play from Ms. Nao Kaneko of Shiki Theater, followed with a very enjoyable dinner. This Mamma Mia is the first opening performance of the new Shiki Theater recently built in Osaka. We were fully satisfied with the pleasant 'Mamma Mia' musical, covered by ABBA's composition in the newest ultramodern theater. The finale standing ovation reflected the members' big excitement.



Time of Retirement

Teiichi Nishimura, President of JASO

Time flies like an arrow. The time to hand over the baton to Mr. Toichi Takenaka, the newly elected President, is coming near after I served as the President of the traditional Japan-America Association of Osaka. I cordially offer my heartfelt thanks to the members for the kind cooperation and support extended, enabling me to complete my term with JASO upholding its prestigious character. When I was appointed the President, I was worried about what to do. I thought then that I should attend to each event to have a direct personal communication with you though I could not do big things. Therefore each schedule was decided according to my own convenience. I thought it had better to plan each event with the firm theme rather than waiting for a casual idea. I decided to concentrate on two main events, i.e., one was to introduce Japanese culture under the theme "to explore the roots of Japan" and the other was to introduce American culture by putting jazz in our programs. While making each plan, I came to know that there were many members who were not familiar with the contents of our activity and therefore, we decided to publish our original news letter published every two months to widely announce our



activity to the membership. So far, many favorable comments were received from the members. In this way, members feel the association close to themselves and deepen mutual communication, which makes me very happy. Unfortunately there remain some problems like few American members living in Kansai and low participation of younger people. I would like to ask the new President Mr. Takenaka to wrestle with these problems in succession. Lastly, I wish all of you to continue to cooperate with JASO and give your constant support to it. I wish to pray for further development of JASO.



From the Prefecture of Osaka

The Osaka Prefectural Government California Office in San Francisco, in cooperation with the City of Osaka Chicago Office, participated in RobotNexus 2004 held in Santa Clara, California last October, and publicized Osaka. The event was the first robotic conference focusing on household robots in the US, where consumer, entertainment and other state-of-the-art robot technologies were introduced. There were 10 thousand attendees, from local elementary school students to leading robotics researchers, taking part in the very successful event in the Santa Clara Convention Center. A bipedal walking robot exhibition by a Japanese company drew special attention. That was the only humanoid robot in the exhibition and attracted large audience whenever its demonstration took place. Many business people from Japan also visited the venue and some of them were looking into the next year participation. In Osaka's booth, as a part of our efforts to further promote Osaka's name to the rest of the world, we publicized RoboCup 2005 Osaka to be held in July as well as appealed Osaka's strong manufacturing, particularly robotic industry.



Mr. Zenji Kaminaga
Ambassador Extraordinary
and Plenipotentiary
MINISTRY OF
FOREIGN AFFAIRS
OSAKA OFFICE

Sakurabito (Cherry Man)

It was just before 9:00AM when the busses carrying Sakurabito(cherry appreciating men or ladies) started Umeda. The best weather of the year for observing cherry blossoms led us to Kyoto crowded with some tens of thousands of people, and nobody expected to come back by 7:00PM as originally scheduled. The Ariake(daybreak) cherry of Omuro is good. The color is white. There are both single and double pedals. Gathered flowers become tufts of hand-ball, which fill trees with white snowy clusters. The height is ten feet. Not too high, not to low. There is no other sakura flower comparable in its magnificent beauty. (I got this impression when I visited next week again as Omuro cherry was not in bloom on that trip day.) Ninnaji is a temple where the Emperor Uda once lodged. There were the Imperial chamber and the main hall of Shishinden(Hall of ceremonies of imperial Palace.). The five-storied pagoda clothing white cherry was very artistic. A reddish violet azalea put graceful color on all white cherry color. Our next visit was Yomei-Bunko where national treasures of Konoe family in each generation were exhibited. 'Kanpaku Nikki' (diary) of Michinaga Fujiwara and 'Waka Eiso' (poem) of Teika Fujiwara is one of them. There was no obstacle in the space between myself and the real thing which I was directly facing, and this strange fact made me feel the breath of

the ancients kept in the old books exhaled out naturally. Lunch was held at Shinsen-Inn of which drinking water resource was dug at the same time Emperor Kanmu opened the Heiankyo capital. It was quite smart talk of cherry blossom we had while drinking the water of the Inn with a history of a thousand-year of Kyoto. In the afternoon, by a curious coincidence, we visited the second Monzeki today, Shoren-in, where the retired Emperor Toba was converted to Tendai esoteric Buddhism. Cherry blossoms were in graceful bloom all over the branches. The Aofudo (Blue God of Fire) was enshrined in the temple underneath the tree. Its attire is very much valiant. I heard that Shinran entered the Buddhist priesthood in this monastery. Actually this monk is the founder of Jyodoshinshu sect. I could not stop feeling the mystery of karma. The last spot was Shogunzuka at Higashiyama. There I confirmed the bird's eye view of the scenic Kyoto spots covered by cherry blossom where we visited today. Cherry excursion of spring time in ideal weather was one of the best pleasant memories in my life. We turned our steps homeward thanking President Nishimura and his staffs of JASO for the marvelous trip plan.



Member's Column

LULLABY OF BROADWAY



Mr. Yutaro Mikami
(Ashiya)

'Mamma Mia' was the musical play that the audience started to dance in their seats in the theater and the conductor gave a smiling wink to them turning his face to their seats from his orchestra box. The whole theater in a full house with middle/advanced aged people became the stage itself. The audience posing as stars joined in singing ABBA's famous songs by performers. Many, many people were dancing in beating rhythm with their hands and feet. Broadway is the place we taste the joy of momentary life and its excitement. My grand daughter in high school, who was with me then, might have been in the ecstasy of its charm. Creates and gives us a dream, it is Broadway! I love Broadway! 'Mamma Mia' was performed in Tokyo and Osaka by Shiki Theater but it was played by the tape without orchestra in Osaka at the opening of a new Shiki theater on January 5. When all is said and done, Broadway musical is featured by music, dance, also tapping, gorgeous costumes and smart stage. All of those elements were stuffed in "42nd Street". It was performed several times in Japan and commanded general popularity. Some Americans say this is an origin of the musical. This Broadway musical became popular by the dreamy Cinderella story about a country girl being picked up and rising to stardom and impressed people of all classes. Tony Prize was given to it at its revival performance.

According to my acquaintance in Broadway, most of the performers are in their thirties and forties, and even some top stars are in the fifties. He said most of them do not join provincial tours, even overseas and the reason is because they can survive in the severe competition in New York while continuing remarkable performance at daily stage not to lose their status and fame. He also told me that the performers joining Japan performance were chosen at a new audition and who were mainly in their twenties, among whom are talents having chance to appear on the Broadway stage. Tonight, I will try to dream Broadway after listening melody of 'Lullaby of Broadway' and the drum sound of 'Sing Sing Sing'.



Prayer



Ms. Hiroko Ihara
(Akashi)

On May 1, I performed Kyogen on the Noh stage at Sumiyoshi Shrine near my home during this year's annual Noh and Kyogen events that marked the 30th anniversary. Although Kyogen, in a traditional Japanese comedy, it aims at offering sophisticated humor, I performed a comical servant but received little response -- no wonder as the outdoor audience seats got all were wet due to heavy rain. I was nevertheless elated as I could offer my performance to the shrine where I worship to pray for myself and for other people. Speaking of prayer, I participated in all the four outings titled "Explore the roots of Japan" organized by JASO and enjoyed many chances to pray before tombs, shrines and temples in Asuka, Ise, Mt. Koya and Kyoto, which are deeply associated with the Japanese' inner universe of spirit. I also saw many people praying, which made me feel invigorated. To attend the recent funeral of the late Pope and the inauguration mass of the new Pope, a surprisingly large number of people came together from all over the world. The aired view of their prayer at St. Peter's Square was very impressive. After the recent fatal JR accident, many people prayed for the victims. Prayer itself may not have power, but I believe prayers' enthusiasm can sometimes be a driving force to improve difficult situations.

The Year in the U.S.



Ms. Noriko Fukunaga
(Nishinomiya)

It was more than 40 years ago that I spent a year in Ohio as an American Field Service exchange student. With young John F. Kennedy as the leader, the U.S. was full of dream and hope for the future. I lived with a middle class typical American family with whom I experienced good old America with discipline. Among other things, I was very much impressed with the strong sense of dedication of every citizen, young or old, to serve his or her community and country. My host mother worked as a volunteer in the local hospital every Wednesday, and she would turn down any other invitation or commitment on Wednesdays. AFS, which provided me with the scholarship and the family, is a worldwide non-profit organization to promote exchange among young people. A town wishing to invite a foreign young student had to raise as much as \$3000 when the exchange rate was 360 yen to a dollar. Rotary Club and other charitable organizations and community groups were the major contributors. In return, I went to give speeches to these groups and enjoyed meeting with different Americans. This way, the door to the world was opened in front of me as a young student during the memorable year in the U.S.

New members

Corporate Members

NAKAJIMA
INDUSTRIAL CO.<D.
President Nakajima Hiroshi

Individual Members

Kiba,Kazuko Osaka
Nakai,Yasuyoshi AmaGasaki
Takada,Toshiko Sennan

Family Members

Kiba,Takeshi Osaka

(No Prefix)

Notes

Such event as USAF Jazz Concert, JASO & JBSK Joint Golf Competition and an appreciation of Mamma Mia was managed one by one without any trouble, only the annual General Meeting is the remaining responsibility during our term. At the beginning when the JASO secretariat was passed on to us, we were very much ill at ease fearing what would happen from then. Now we would like to express our deep appreciation for your utmost cooperation and warm support without which we could not complete our term of service in the given two years for the continued well being of JASO. During this two years, we met various people and passed through the varied and valuable experiences. We sincerely wish to pray for further development of the association and to keep mutual communications with you as a regular member from now on while supporting the new secretariat of JASO. Thank you. (EM)